

# 大阪府景観色彩ガイドライン

## 目 次

景観色彩ガイドラインの位置づけ .....	1
景観色彩とマンセル表色系 .....	1
大阪府景観計画における色彩基準 .....	2
大阪の色彩 .....	3
色彩選定のポイント .....	5
建築用途別のおすすめの基調色 .....	7

## 景観色彩ガイドラインの位置づけ

大阪府では、「美しい世界都市大阪」の実現をめざし、景観法に基づいて良好な景観形成を推進するため「大阪府景観計画」を、平成 20 年 10 月に策定しました。大阪府景観計画では、大規模建築物等を対象として意匠や形態についての基準を定めています。

このガイドラインは、大阪府景観計画で定められた色彩基準に沿って、大規模建築物等の色彩を考える上での配慮ポイントを解説したものです。景観色彩の現況調査に基づき、大阪の景観色彩の特性を踏まえ、建築物の用途に応じた色彩選定の考え方や推奨色、またその組み合わせについて紹介しています。

## 景観色彩とマンセル表色系

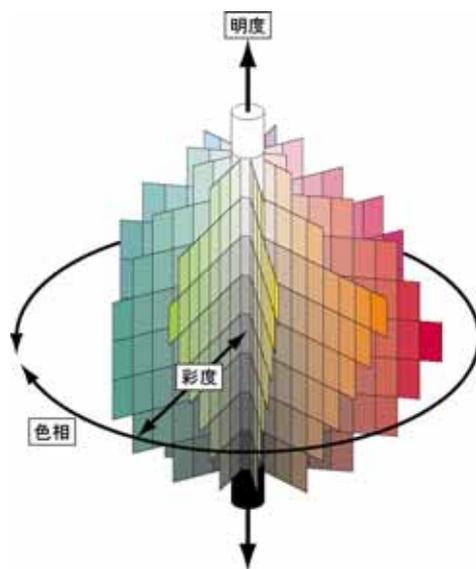
背景の山並みの緑、マンションやビルの外壁のベージュやグレー等、まちなみ景観の色彩は多様ですが、色名からイメージする色は人によって異なります。このガイドラインでは、色を的確に伝えるためにマンセル表色系を用います。

マンセル表色系では、色相、明度、彩度の 3 つの属性で色を表示します。

**色相** R (赤)、Y (黄)、G (緑)、B (青)、P (紫) の 5 つに、中間色相の YR、GY、BG、PB、RP を加えた 10 色相に分かれ、1 から 10 の数字で表示されます。

**明度** 黒を 0、白を 10 として、その間を感覚的に等しい段階に分けています。色票では、明度は 1 ~ 9.5 の数字で表示されます。

**彩度** 無彩色を 0 として、色の鮮やかさが高まるに従ってその数値は大きくなります。色相によって彩度の最大値が異なり、最も鮮やかな赤は彩度 14 程度になります。



有彩色は色相、明度 / 彩度を組み合わせて、無彩色はニュートラルを表す N と明度を組み合わせて表記します。

例

 2.5R 4 / 10 (色相 2.5R、明度 4、彩度 10)

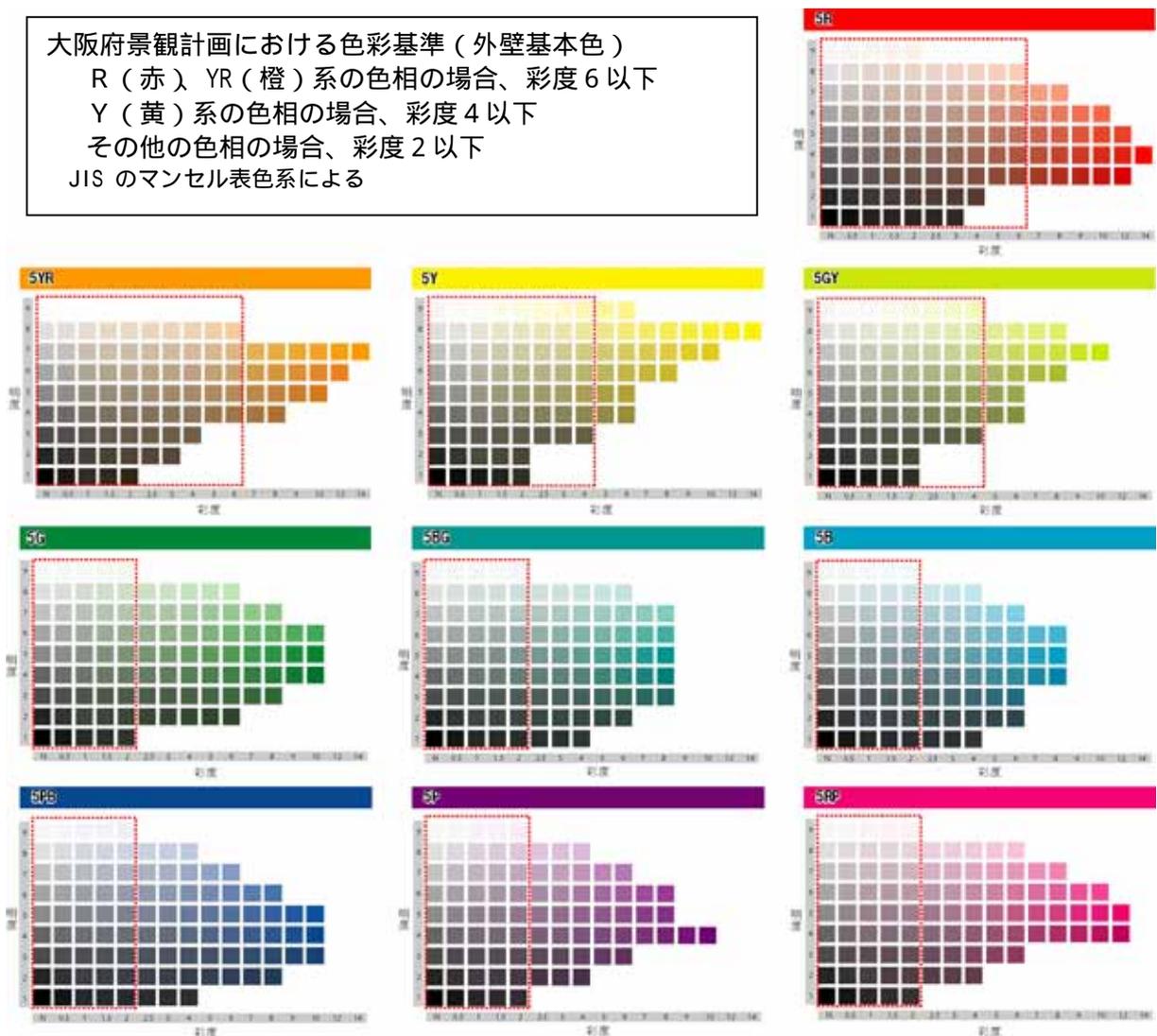
 N 8 (無彩色、明度 8)

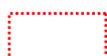
## 大阪府景観計画における色彩基準

大阪の景観は、北摂、生駒、金剛、和泉葛城山系の山並みや千里、泉北等の丘陵と、平野部を流れて大阪湾に注ぐ淀川や大和川の河川により骨格が形成されています。その内側に、都心部と郊外をつなぐ道路・鉄道軸と、古代から近代の歴史をいまに伝える古墳群や旧街道の歴史・文化遺産ネットワークが広がっています。

「大阪府景観計画」では、道路軸、河川軸、山並み・緑地軸の景観計画区域について、地域特性をふまえた良好な景観づくりの目標、方針、行為の制限に関する事項を定めています。その中で、届出対象となる大規模な建築物の外壁の色彩に関しては、すべての区域に共通の基準（外壁基本色）を設け、彩度の高い色彩の使用を制限しています。

大阪府景観計画における色彩基準（外壁基本色）  
 R（赤） YR（橙）系の色相の場合、彩度6以下  
 Y（黄）系の色相の場合、彩度4以下  
 その他の色相の場合、彩度2以下  
 JISのマンセル表色系による



 外壁に使用してもよい色彩の範囲

## 大阪の色彩

大阪府下の景観色彩調査(注1)で把握した出現色の現況について、主要な要素(「建築物の外壁・屋根・塀・植栽」「工作物」「背景や周辺の緑」)別に整理すると、以下のような傾向が見られます。

### 全般的な傾向

【外壁】明るめで落ち着いたつきのある暖色系  
色相はR、YR、Y系の暖色系が最も多く見られます。明度は6以上の明るいものが多く、彩度は2以下の落ち着いたつきのある色彩となっています。



中高層住宅 (東部ブロック)

10YR9/0.5

2.5YR7/2

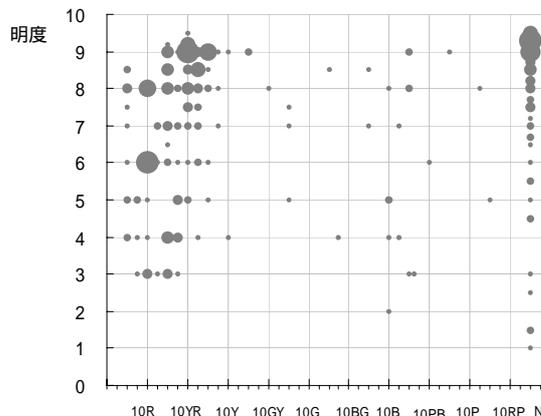
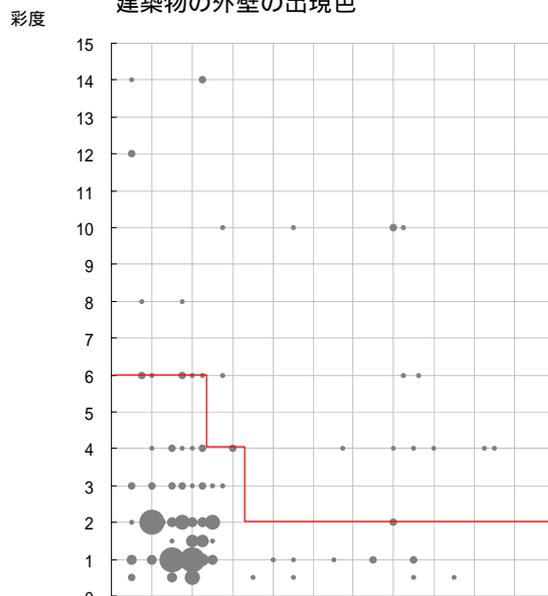
【屋根】外壁よりも暗めで寒色系も見られる  
色相はN、YR、B系の概ね3つのまとまりがあり、5B~5PBの寒色系も見られます。明度は概ね4以下、彩度は2以下の暗めで落ち着いた色となっています。



戸建住宅 (東部ブロック)

N2

建築物の外壁の出現色



【塀】外壁と調和する高明度低彩度の暖色系

色相はYR系が多く、明度は概ね7以上、彩度は4以下で外壁と調和する色彩となっています。

【植栽】

色相はR~Y系(樹や枝の色)、GY系(葉や芝生の色)が多く見られます。季節により葉の茂り具合等で変化しますが、調査時期(冬季)の明度は概ね4以下、彩度は6以下となっています。

【工作物】

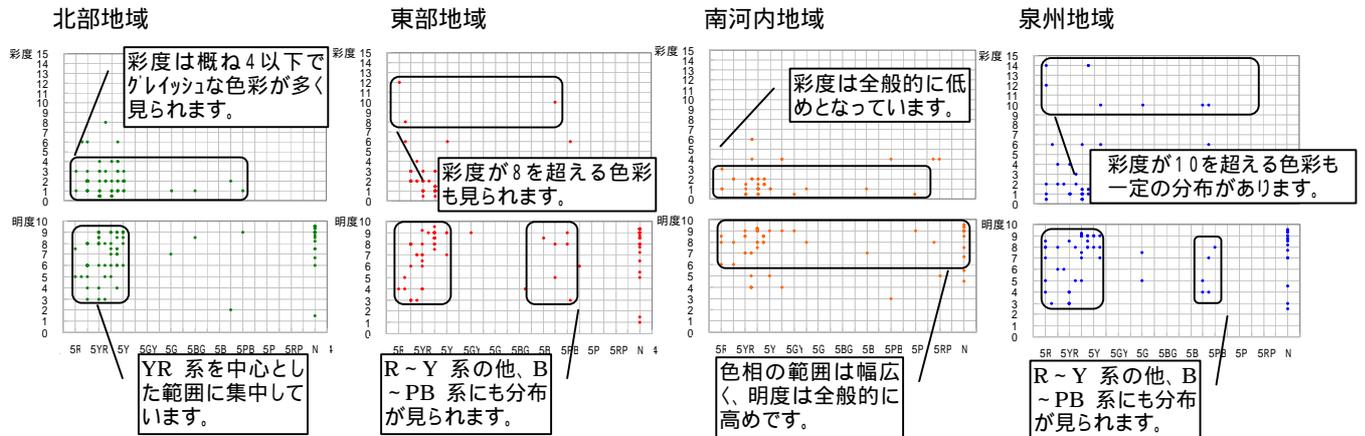
色相はN系(無彩色)とYR系が多くみられます。明度は概ね7以上、彩度は2以下となっていますが、彩度が1.4(赤白に塗り分けられた煙突の赤色)といったものも見られます。

【背景や周辺の緑】

色相はY~GY系が見られます。明度は9以上の明るいものも見られ、彩度は概ね4以下となっています。

## 地域別の傾向

建築物の外壁の色彩について、一般的な傾向から外れているものに注目してみると、次のような地域別の違いがあることがわかります。



### 【北部地域】

- ・色相はY R系を中心とするR ~ Y系に集中して分布しています。
- ・全般的に彩度は低めでグレイッシュな色調の色彩が多くなっています。

### 【東部地域】

- ・色相はY R系を中心とするR ~ Y系その他、B ~ P B系にも分布が見られます。
- ・一部には彩度が8を超える色彩も見られるが、これらは主に強調色（アクセントカラー）として使われています。

### 【南河内地域】

- ・色相は幅広い範囲で分布しており、他地域ではほとんど見られないP ~ R P系も一部で見られます。
- ・全般的に明度は高め、彩度は低めで淡い色調の色彩が多くなっています。

### 【泉州地域】

- ・色相はY R系を中心とするR ~ Y系その他、B ~ P B系にも分布が見られます。
- ・彩度が10を超える色彩にも一定の分布が見られ、対比的な色づかいによるインパクトの強い事例も見られます。



7.5YR6/2

戸建住宅（北部ブロック）



10B5/10

業務施設 アクセントカラー（東部ブロック）



10R9/0.5

戸建住宅（南河内ブロック）



5R4/14

2.5PB4/10

業務施設（泉州ブロック）

注1) 大阪府を4つの地域（北部、東部、南河内、泉州、大阪市域を除く）に分けて、景観上重要な要素（山稜・丘陵、河川、主要幹線道路、旧街道、ため池、鉄道駅、空港、港、歴史的町並みなど）を有する代表的な地点をそれぞれの地域から選定し、景観構成要素の出現色を調査しました。

## 色彩選定のポイント

建物の色彩を考えるときには、街並みや背景の自然の景観との調和を考え、自らも景観を構成する要素であることを十分に意識しましょう。ここでは景観に与える影響が特に大きい建物の外壁の色彩を基調色と協調色に分け、それぞれの選定のポイントを示しています。

### 基調色

基調色は建物の外壁などの多くの面積を占める色彩で、建物景観イメージの基本となるものです。街並み景観の色彩は、それぞれの建物の基調色が集まって構成されています。このため、周囲の建物の基調色から突出した色彩を使うと、まとまりのない景観を生み出してしまうことになります。

大阪の色彩景観の現況からは、基調色は比較的明度が高く、彩度が比較的低い色彩とすることが望ましいと考えられます。基調色を選定するときには以下の点に注意しましょう。

#### Point1 めざしたい景観イメージを考える

まずは建物の用途や周囲の状況などから、どのような景観をめざすのかを考え、そのイメージに合った色彩選定の方向性を明確にすることが大切です。めざしたい景観イメージから色彩を選ぶ際には、色彩から受ける心理的なイメージや、色名からイメージを具体化していくことも考えられます。

代表的な色名としては JIS 慣用色名などがあります。

#### Point2 場所にふさわしい色彩を考える

落ち着いた住宅地、にぎやかな商業地、心和む田園集落地、活気ある工業地などそれぞれの地域で街並みや風景のイメージも異なり、用いられる色彩も異なります。自分の好みや建物単体のデザインばかりを考えるのではなく、場所にふさわしい色彩を選ぶことが大切です。周囲の街並みや背景の自然に調和してこそ建物のデザインも魅力的なものになります。

#### Point3 建物のイメージに合った色彩を考える

日本では昔から建物には木、石、砂、土など地域産の素材が用いられ、それらの色彩は地域ごとにまとまりのあるものでした。こうした建物の色彩は今日でも慣例的に用いられ、建物に対して私たちが抱くイメージにも影響を与えています。建物の基調色を選ぶ時は、こうした点や素材による質感の違いなどにも配慮し、違和感のない色彩を選ぶことが大切です。

色彩と心理的イメージ



JIS 慣用色名の例

	象牙 (2.5Y8.5/1.5)
	生成り色 (10YR9/1)
	鶯茶 (5Y4/3.5)
	利休鼠 (2.5G5/1)
	ベビーピンク (4R8.5/4)
	杏 (6YR7/6)
	とび色 (7.5R 3.5/5)

#### Point4 耐久性やメンテナンスを考える

景観に与える影響の大きい建物の基調色はいつまでも美しく保つことが大切です。一般に彩度の高い色彩は褪色しやすく、淡く澄んだ色彩は汚れが目立ちやすいものです。色彩を選ぶときには耐候性や経年変化とともに、メンテナンスのしやすさにも配慮することが必要です。

#### 強調色

建物の基本的な景観イメージを左右する基調色に対して、強調色を部分的に使用することにより変化のある生き生きとした景観を生み出すことが可能です。強調色を効果的に用いることでイメージを強調したり、ランドマーク性やシンボル性を高めるなど建物の印象を強いものにする効果も期待できます。強調色は基調色との関係を考えて選びます。

#### ベースカラー / サブカラー / アクセントカラー

建物の外壁などに使用する面積の大きさにより、ベースカラー、サブカラー、アクセントカラーに分けて配色を考えることも効果的です。ベースカラーとサブカラーは基調色として、アクセントカラーは強調色として考えます。

基調色	ベースカラー	外壁などの大部分を占める色彩です。周囲の景観から突出しないように特に注意して選ぶことが大切です。
	サブカラー	ベースカラーよりも使用する面積が小さく、変化や個性を与える色彩です。大規模な壁面を分節化して圧迫感を緩和する効果もあります。ベースカラーとの類似調和に配慮します。
協調色	アクセントカラー	アクセント的に小面積（数%程度）に使用して全体を引き締める色彩です。ベースカラーやサブカラーとの対比に配慮します。

#### 調和しやすい色彩の組み合わせ

複数の色彩を用いる場合には調和しやすい組み合わせを考えることが大切です。一般に、調和しやすい色彩の組み合わせとしては類似の色彩を用いる類似調和と、対比的な色彩を効果的に用いる対比調和があります。色彩景観を考えるときには、それぞれの要素が主張しすぎないよう類似調和を基本としますが、アクセントカラーなどの演出意図によっては対比調和が有効な場合もあります。

#### 色相をそろえる

類似の色相を用いることによって違和感のない配色になります。



#### 色調をそろえる

明度と彩度の組み合わせによる色調をそろえることでまとまりのある配色になります。



#### 主張しすぎない

それぞれの要素が主張しすぎるとまとまりのないものになってしまいます。

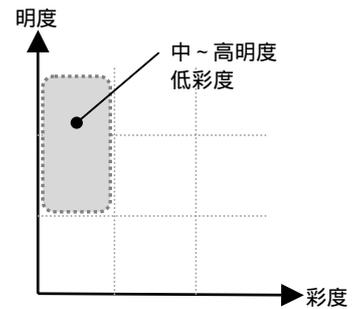
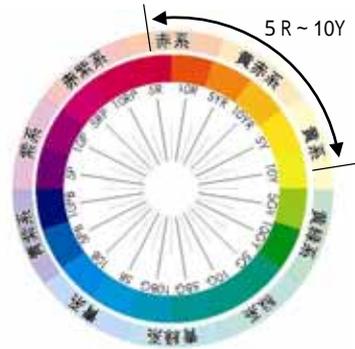


## 建物用途別のおすすめの基調色

周囲から突出しない調和した景観をつくるためには、建物の基調色を大阪の色彩景観の全般的な傾向に合わせる事が基本となります。また、地域別の出現職の傾向にも配慮することにより地域らしい景観をつくっていくことも大切です。ここでは、大阪の色彩景観の全般的な傾向を踏まえて建物の用途別におすすめの基調色を示します。

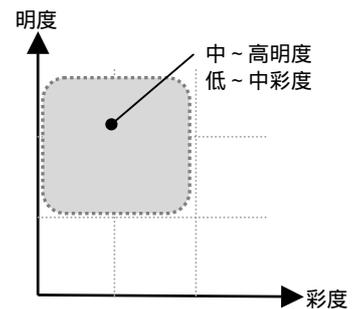
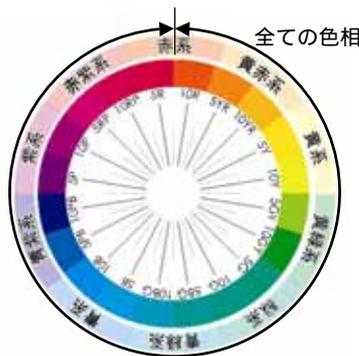
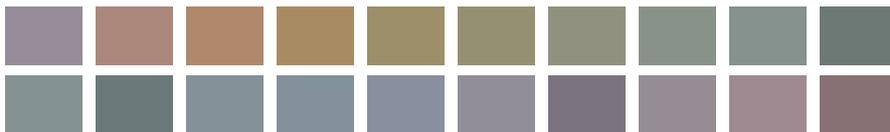
### 住居系建物

住居系の建物は5 R ~ 10 Y系の色相が多く見られ、明度は6以上、彩度は2以下のものが増えてきています。周囲の景観になじませるため、住居系の建物の色彩は、YRを中心としてR~Y系の色相の中~高明度の低彩度色がお勧めです。



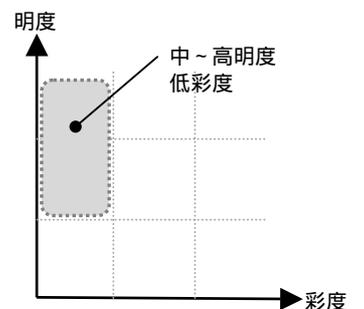
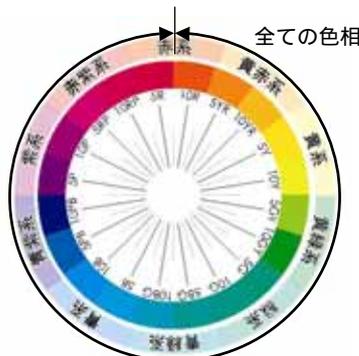
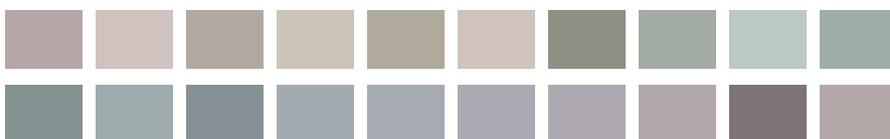
### 商業・業務系建物

駅前や商店街に立地する建物には、R~Y系の色相が多く見られ、明度は7以上、彩度は2以下のものが増えてきています。また、幹線道路沿道にはB系の色相で彩度がやや高いものも見られます。商業・業務系の建物にはにぎわいや華やかさが求められるため、幅広い範囲の色彩がおすすめですが、派手な高彩度色は避けましょう。



### 工業系建物

工業系の建物や工作物には、YR~RP系の幅広い色相が見られます。明度は7以上、彩度は4以下のものが増えてきています。工場などの建物はその大きさや独特の形態などから威圧感を与えやすいものであるため、明るく親しみやすい色彩がおすすめです。





同色相の色彩を使い分け、スケール感を軽減した住宅



外部空間を含めたトータルな色彩デザイン



主張しすぎないよう配慮しながらも楽しさを演出する色彩



壁面にアクセントカラーとして彩度の高い色彩を用いた建物



屋根を暖かみのある落ち着いた色彩にした工場



無機質な表面にアートで色味を加えた工作物



# 大阪府景観色彩ガイドライン

平成 21 年 3 月

大阪府 住宅まちづくり部 建築指導室 建築企画課 景観推進グループ

電話番号 06-6944-9333 Fax 06-6941-1586  
Email [kenchikushido-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kenchikushido-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp)